



Dr. Thanawan Bhookphan

私は先月 2 月 1 日付で DEVNET INTERNATIONAL の理事職を任命され、同時に DEVNET タイ支部を任されることになりました Thanawan Bookphan です。タイ運河という超国家プロジェクトに携われることは大変名誉なことであり、心から嬉しく思っている。

私は首都バンコクに生まれ、30 年以上をアメリカで過ごした。アリゾナ大学で機械工学の学位を取得後、産業工学部で修士号と博士号を取得した他、エンジニアリングや国際的なビジネスマネジメント等の専門知識を身につけることが出来た。在学中から多くの大企業・優良企業で働き、卒業後はモトローラ USA に入社し、アメリカ航空宇宙局 (NASA) をサポートするエンジニアリング部門でアポロ 14 号、15 号の月面ミッションの成功に貢献した。

その後、スペースシャトルのモックアップ、レーダー、衛星、携帯電話チップのアンブ回路なども設計した。米国で多くを学び貴重な経験を得た後、私はタイに戻り自分の知識を使い祖国の発展のため尽くすことを決めた。

以来、人工降雨や電気通信、最近では廃棄物からエネルギーへ、太陽エネルギーを含むグリーンテクノロジー関連の開発など、国王の側近として多くの事業に携わってきた。

プミポン国王は、1955 年 11 月に「タイ王室の雨作りプロジェクト」において干ばつに苦しむタイ農民の救済を目指した。当時、タイの農地は 82% 以上が自然降雨に頼っており、タイ農民の多くは水不足に苛まれていた。以降、1969 年 7 月 20 日、カオヤイ国立公園での人工降雨実施、1971 年にはタイ農業協同組合省内に人工降雨研究開発プロジェクトが設立設置されることとなった。

タイの国土が水不足に悩む一方で、首都バンコクでは地下水の汲み上げ過ぎによる地盤沈下が年々悪化、浸水被害が深刻になっている。世界銀行の発表では、2030 年までに都市の一部 (4 割?) に水没の恐れがあるという。今日、地下水過剰採取の問題は ASEAN の大都市共通の課題である。このような背景から、タイで洪水が発生した際には、タイ赤十字社を支援するために「ThanawanBhookphan Relief Foundation」を設立した。

さらに、私のチームは、タイの貧困を減らすために、関連技術を用いて北部地域の農業プロジェクトと冷水フルーツプランテーションのロイヤルプロジェクトの成功にも貢献してきた。

また、私は、政府機関や民間組織のコンサルタントとしても活動しながら、タイの通信システムの開発にも力を入れている。ルンガケラヤ・エンジニアリング・カンパニー・リミテッド (RA) を設立して、ワイヤレスネットワーク用の基地局建設に取り組んでいる。さらに、私のチームは、ミャンマーでの石炭プロジェクト、環境問題に対処するためのバイオマス発電の建設、その他の先進技術の導入など、多くのプロジェクトに取り組んでいる。

今回のタイ運河総合開発においては " 持続可能な都市づくり " に向けて、今までのプロジェクトが全て活かされる。中でも、仏教の原則に基づいた「充足経済学」の理論を実践したいと思っている。これは 1997 年のアジア金融危機の後、タイを経済危機から救う方法としてプミポン国王が自給自足の経済を提案されたことに始まる。すべてのタイ人が自分たちの経済によって、食べていける生活を送ろうというものであった。「足るを知る経済」とも呼ばれるものだ、強欲への戒めが核となっている。本来、経済の意味は「まかない」にあり、いたずらに規模の大小を競うものではない。

何もが一つに集約された巨大都市を創るのではなく、自給自足の小経済圏を連結・集積することで、エネルギー効率が高く、災害にも強い都市圏を創るのだ。

観光都市として整備が進むプーケット市や、タイ全土 100 都市で進められているスマート化などとも連携しながら、2050 年の未来を先取りする総合都市開発を「タイ運河総合計画」では目指したい。現在、タイ王国全土において多くの大規模インフラプロジェクトが平行して建設されており、2024 年以降次々と完成していく。タイ運河開発はそれらの大規模開発の総決算となるに違いない。

DEVNET タイ支部の設立はまさに満を持してといったところだ。

完成の暁には、本計画はマハ・ヴァジラロンコン国王の歴史的偉業として後世に語り継がれるものとなるだろう。